

増刷出来！

日本の植民地教育の実態を示す根本資料  
(日本語教育用教科書・教師用指導書)  
を体系的に編纂した初めての資料集成。  
収録した教科書は全79冊。

竹中憲一編・解説

# 「満州」植民地 日本語教科書集成

全7巻



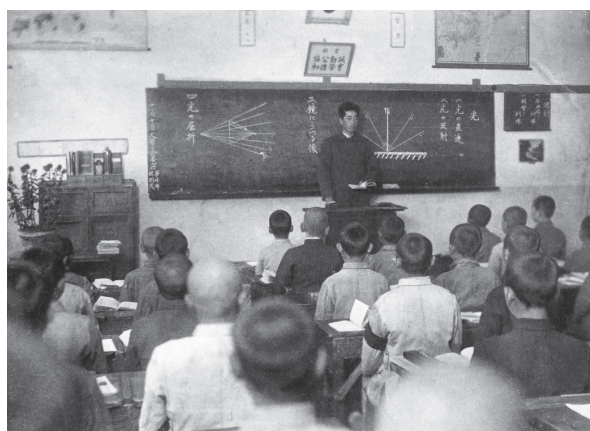
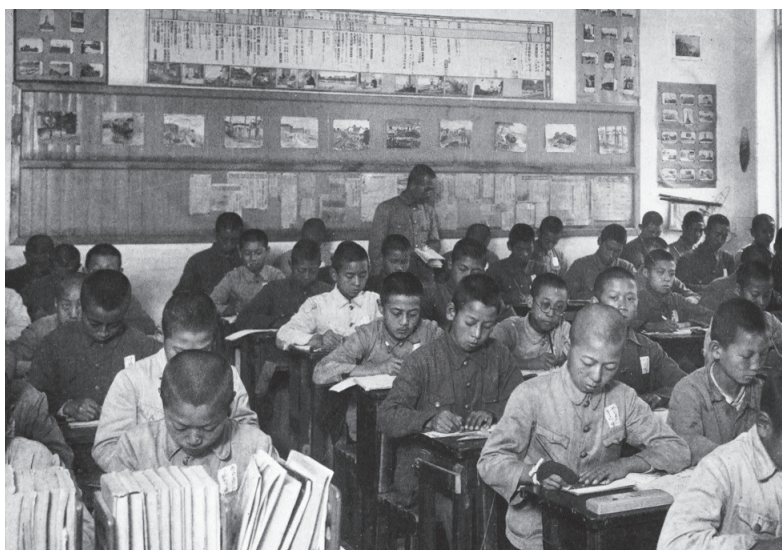
貔子窩公学堂の授業風景

## 刊行にあたって

近年、戦前・戦中期の日本植民地教育史は、調査・研究の諸方面で大きな進展と成果を示している。資料の面では、教科書資料についてみれば植民地内居住の日本人子弟に対するものが中心であった。一方、日本の植民地教育・言語政策の根幹をなす植民地民衆に対する日本語教育・啓蒙の実態を知るための日本語教育資料は、これまでほとんど体系的に示されることはなかった。今回刊行する公的日本語教科書・教師用指導書は、「満州」及び「満州国」で主として中国人に對し、どのような教科書を使用して、どのような教育をしようとしていたのか、その実態を示す第一級の日本語教育史資料である。さらに「満州」のみならず、日本植民地教育史の空白を補う資料として大いに活用していただければ幸いである。

## 本「集成」の特色

- 一九二〇年～一九四二年までに「満州」及び「満州国」において発行された初級、中級、高級、速成用教科書及び「満州国」の教科書・教師用指導書を網羅した。本集成では、収集した教科書全七九冊(約九、九〇〇頁)を縮小(二頁四面付)して収録した。
- 各教科書の原初の形態・内容を示すため、できるかぎり初版・再版を収録した。
- 本集成では教科書を初級教材、中級教材、高級教材等の等級別に分類し、更に各等級の教材については教科書の変遷にあわせて時系列に配列した。
- 本集成によって日本の植民地教育の実態研究が促進されるとともに、同じ日本植民地であった朝鮮・台湾等との比較研究が可能となった。编者解説(第7巻所収)においても台湾・朝鮮と比較しつつ「満州」における日本語教科書の変遷を詳述。
- 日本語教授書類は、現代の教授法研究や現代日本語研究にとって、歴史的 분석をする上で貴重な資料である。
- 本集成は語学的資料にとどまらず、広く日本の異民族同化政策、中国文化侵略の實際を分析する上でも貴重な資料群である。



西南女子公学堂の授業風景(左上も同じ)

# 植民地日本語教育の実情を知る宝の山

上野田 鶴子 (東京女子大学現代文化学部教授)

広く散逸していた旧満州における日本語教育の教科書である日本語読本を初級から上級まで全七巻に収めた膨大な資料である。教師のための指導参考書である教授書、教授参考書もあり、当時の日本語教育の基本的姿勢を詳細にみるができる。現在の日本語教育の背後には植民地教育の中軸となった日本語教育があり、近年この分野の研究が盛んになっている。このような時に身近に手にすることができる全七九冊が備えられたことは、宝の山が、突如、眼前に現れたのに等しい。

現地を行脚し宝の発掘にかけた編者の並々ならぬ努力に脱帽し、緑蔭書房に感謝する。この時代を知るためにも、宝の山を是非活用なさることを多くの方にお勧めしたい。

## 第二級の日本語教育史資料とその研究

奥津敬一郎 (東京都立大学名誉教授)

畏友竹中さんは、歩く人、見る人、集める人、調べる人である。しばらくご無沙汰していた竹中さんが、二年前「満州」における教育の基礎的研究(全六巻)の出たことを知り、驚嘆した。いつの間にか膨大な資料の蒐集と分析をやったのか。続いて今回の「満州」植民地日本語教科書集成(全七巻)である。「満州」から「満州国」に至る二〇年ほどの間の殆どの教科書一〇、〇〇〇ページ近くを集め詳細な解説を施している。脱帽である。

試みに一九二四年の「初等日本語読本巻一教授参考書」を見ると、「話し方本位」「実用主義」「文型尊重」の三大原則と、教授法として「直接教授」と「問ふも児童、答ふるも児童」という「問答」を強調している点など現代の教授法としてそのまま通用するので面白い。

更に日本語教育のみならず、「満州」から「満州国」への教育や日中関係の変化についても貴重な資料になることは間違いない。

## 全巻の構成

### 第1巻「初級教材」

南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻1	一九二四年再版
南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻2	一九二四年初版
南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻3	一九二五年初版
南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻4	一九二七年三版
南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻5	一九二六年再版
南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻6	一九二七年再版
南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻7	一九二七年初版
南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻8	一九二七年初版
南満州教育会編輯部「初等日本語読本巻一教授参考書」(稿本)	一九二四年初版
南満州教育会教科書編輯部「初等日本語読本巻二教授参考書」(稿本)	一九二四年初版
南満州教育会教科書編輯部「第二種 初等日本語読本」巻1	一九三三年四版
南満州教育会教科書編輯部「第二種 初等日本語読本」巻2	一九三三年初版
南満州教育会教科書編輯部「第二種 初等日本語読本」巻3	一九三三年初版
南満州教育会教科書編輯部「第二種 初等日本語読本」巻4	一九三三年初版
南満州教育会教科書編輯部「第二種 初等日本語読本教授書」巻1	一九三二年初版
南満州教育会教科書編輯部「第二種 初等日本語読本教授参考書」巻2	一九三三年初版

関東庁、満鉄が別個に行っていた教科書編纂を初めて合同でやったもので、その後の「満州」における日本語教科書の基準となったもの。同時に発行された教授参考書は、日本語の会話ができるようになることを第一目的として、口と耳による話方本位の教育を教授方針とした。第二種は「初等日本語読本」の簡易版として編集されたもので、日本語の時間数の少ない初等学校用、四年制の普通学堂を対象として編集されたものである。

## 初等日本語読本 巻一

### 初等日本語読本 巻一 教授参考書

#### 総説の部

初等日本語読本巻一は関東廳及滿鐵が從來使用してゐた日本語讀本とは餘蘊論を異にした點があるが如何なる方針のもとに如何に編纂されたかこれを説明する爲めに教授に當る人々が十分注意して讀むべきであらう。總説に於ては各巻に關聯した教務的事項と關する注意事項を述べ各段に於て各巻に對する詳細な事項を述べることとした。各段の語に於て各段に對する取上の意見は教授法に對しては最も重要なる點に對しては最善な方法を述べたのである。各段の事項に對しては各段の事項の趣を考へ十分吟味して適當に取扱ひ指導せられん事を希望する。



# 日本語教育史研究に必須の資料

甲斐睦朗 (国立国語研究所長)

近年、戦前及び戦時中のアジア各地域の日本語教育に関する調査・研究が様々な方面に広がりを見せて着実な実りを上げ始めている。この『満州植民地日本語教科書集成』は、当時『満州』で刊行された各種の日本語教科書を可能なかぎり収集して複製版を出したものである。詳しい解説も加えられるということで、この『集成』の刊行によって、一九四五年以前の日本語教育史が一層具体化し、大きな枠組みとしての戦前・戦後を一つに結んだ日本語教育史の構築が期待される。

## 日本の植民地教育研究の基礎資料

木村宗男 (元早稲田大学教授・元日本語教育学会副会長)

旧満州における日本の植民地教育の根幹であった日本語教育の実態を知るには、今や、日本語教科書(日本語読本)と教授参考書に頼るほかないのが実情である。竹中憲一氏編・緑蔭書房刊の『満州植民地日本語教科書集成』(全七巻)は他に類を見ない貴重な資料である。多年中国で研究生活を送った竹中氏は、持ち前の語学力と中国社会事情についての豊富な知識によって、現地の書庫や蔵書などの中に多年埋没していた各級読本と教授参考書を丹念に掘出して、およそ九五%を修復したという。竹中氏によらなければ日の目を見ることのなかったであろう貴重な資料を前にして、私も研究意欲が沸いてくるのを覚えるのである。

## 散逸の資料を博搜した労苦に感謝

金田一春彦 (国語学者)

本来の意味での国際化時代を迎え、日本語教育も新しい時代を迎えようとしている。私たちは過去の不幸な歴史により、旧時代との断絶があるかのように思っていた。しかしそれが錯覚であることに、ようやく気づき始めてきた。今、それがどのような過去であったのかを、冷静に判

### 第2巻「初級教材二」

在満日本教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻1	一九三九年五版
在満日本教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻2	一九三九年四版
在満日本教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻3	一九三九年再版
在満日本教育会教科書編輯部「初等日本語読本」巻4	一九四〇年改訂版
奉天外国語学校「日本語読本」巻2	一九二〇年七版
奉天外国語学校「日本語読本」巻5	一九二二年九版
奉天外国語学校「日本語読本」巻6	一九二二年九版
奉天外国語学校「日本語読本」巻7	一九二二年九版
奉天外国語学校「日本語読本」巻8	一九二〇年一版
関東庁教科書編纂委員会「日本語読本」第3学年用上巻	一九二四年四版
関東庁教科書編纂委員会「日本語読本」第4学年用上巻	一九二三年初版
関東庁教科書編纂委員会「日本語読本」第4学年用下巻	一九二四年初版

一九三二年「満州国」成立、一九三七年一月満鉄付属地の行政権が「満州国」に移譲された。旧来の南満州教育委員会は在満日本教育会に改組され、それにもない教科書の改訂が行われた。『初等日本語読本』は一九三七年に公学堂用に在満日本教育会教科書編輯部が発行したもの。奉天外国語学校「日本語読本」は一九一七年、満鉄付属地において満鉄により編纂された公的日本語教科書の初期のものである。関東庁教科書編纂委員会「日本語読本」は関東庁が一九二二年に編纂した初期の日本語教科書。いづれも欠本があるが、「満州」の初期の日本語教科書の内容を知る歴史的資料なので初級教材の巻末に収録した。



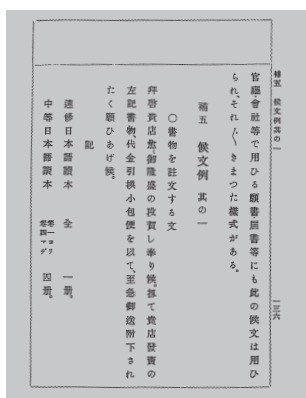
### 第3巻「中級教材」

南満州鉄道株式会社教育研究所「中等日本語読本」巻1	一九二二年初版
南満州鉄道株式会社教育研究所「中等日本語読本」巻2	一九二二年初版
南満州鉄道株式会社教育研究所「中等日本語読本」巻3	一九二三年再版
南満州鉄道株式会社教育研究所「中等日本語読本」巻4	一九二二年初版
南満州教育会教科書編輯部「中等日本語読本」巻1	一九三三年五版
南満州教育会教科書編輯部「中等日本語読本」巻2	一九三三年五版

断する必要がある。

竹中氏は破棄され散逸した旧満州国日本語教科書を、中国大陸において捜し求め、その九五%集め得たという。その労苦に感謝したい。

この集成によって、日本語教育関係者のみならず多くの近現代史研究者が益するところははかりきれないと信じる。



## 「満州」の日本語教育の実際に触れることが可能になった

佐治圭三（京都外国語大学契約教授）

旧「満州」において日本が行った教育を研究テーマとして、『「満州」における教育の基礎的研究』（全六巻 柏書房 二〇〇〇年）という大著を公にされた竹中憲一氏が、その研究の一環として、大変な苦勞をして集められた「満州」における日本語教科書及び教授法指導書（全七九冊）に詳しい解説を付して、『「満州」植民地日本語教科書集成』として、緑蔭書房から出版されるという。竹中氏にしてはじめてなし得たことであり、それによって我々は、「満州」における日本語教育の実際に触れることが可能になったことを喜びたい。この書によって、日本語教育史研究や日本と中国の過去の歴史の研究に新たな光が当てられ、さらには日本と中国の友好がより確かなものになっていくことを期待して、多くの方々にお勧め申し上げたい。

南満州教育会教科書編輯部『中等日本語読本』巻3 一九三三年五版  
南満州教育会教科書編輯部『中等日本語読本』巻4 一九三三年四版  
在満日本教育会教科書編輯部『中等日本語読本』巻1 一九三九年改訂四版  
在満日本教育会教科書編輯部『中等日本語読本』巻2 一九三九年修正三版  
在満日本教育会教科書編輯部『中等日本語読本』巻3 一九三九年改訂七版  
在満日本教育会教科書編輯部『中等日本語読本』巻4 一九三九年改訂六版

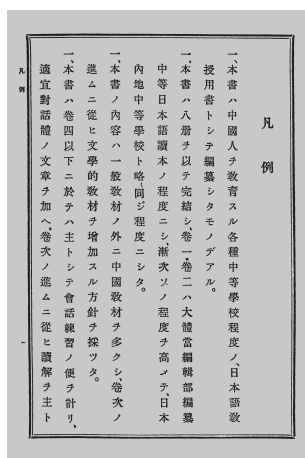
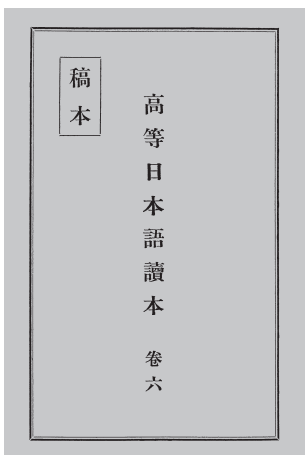
南満州鉄道株式会社教育研究所『中等日本語読本』は公学堂高等科生徒用として編纂したもので、同程度の学校及び学習者でも利用できるようにしている。中国教材を主とし、実用・文学教材を多く採用し、又対話教材を加え、会話練習に便利な編纂が特徴である。

南満州教育会教科書編輯部『中等日本語読本』は前記『中等日本語読本』を改訂したもので、『初等日本語読本』（南満州教育会教科書編輯部）、『新編速成日本語読本』を修得した程度の日本語学習者のために編纂したもの。平易な口語体を中心に日常生活に関係の深い教材を多く選んでいる。

### 第4巻「高級教材」

南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻1（稿本） 一九二七年三版  
南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻2（稿本） 一九二六年初版  
南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻3（稿本） 一九二六年再版  
南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻4（稿本） 一九二七年再版  
南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻5（稿本） 一九二七年再版  
南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻6（稿本） 一九二六年初版  
南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻7（稿本） 一九二六年初版  
南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻8（稿本） 一九二六年初版

中国人に対する各種中学校程度の日本語教授用として編纂されたもので、一般教材の他、巻次が進むにつれ文学的教材を増やし、日本国内の中学校と同じ程度にしているのが特徴である。



# 日本語研究史からの期待

宮島達夫 (国立国語研究所名誉所員)

今回復刻される『「満州」植民地日本語教科書集成』第一巻に収録された「初等日本語読本巻一教授参考書」には、「テイマスは動作の終わった静止状態と動作の進行の有様の両方を表す語である。本課の様な簡単な動作では静止状態を表す事が多いから、其の方だけ教へるのがよいと思ふ。」(二八頁)とある。この本の出版された大正一三年といえは、動詞のアスペクトがまだほとんど注目されていなかった時期である。伝統的な国語学は奈良・平安の古典にばかり関心をよせていた。そのプランクをうめて最近のさかんな現代語研究に道を開いたのが、外国人への日本語教育であることは、よく知られている。日本語教育の資料の発掘はしたがって、日本語研究史の面からも期待される。

## 次代の研究者にも大きな意義ある出版

吉岡英幸 (早稲田大学大学院日本語教育研究科委員長)

戦前の日本語教科書は、多くが散逸し、どこに何があるかも一部しかつかめていない状況である。図書館などで存在が確認できても、傷みが激しいため、コピーはもちろん閲覧も禁止している所が多い。こうした資料を後世に残す手立てを講じることは急務である。このたび、竹中憲一先生が多大な時間と労力をかけ国内外で収集された資料が、『「満州」植民地日本語教科書集成』として出版されることになった。次代の研究者にとってもその意義は計り知れない。まことに喜ばしいことである。

### 日本口語法提要 全

#### 第一篇 品詞

##### 第一章 名詞

###### 一 名詞の単数複数

名詞には通例単数複数の形の上の區別はないが或る名詞は次のやうな形で複数を表はすことがある。

(1) 同じ名詞を重ねること。

人々 山々 島々 隅々

(2) 名詞の下に「がた／＼」や「もろ／＼」を附けること。但し是れは人

## 第5巻 「高級教材二」

- 南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻1 一九三三年三版
- 南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻2 一九三三年再版
- 南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻3 一九三三年初版
- 南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻4 一九三三年初版
- 南満州教育会教科書編輯部『高等日本語読本』巻5 一九三三年初版
- 関東局在滿教務部教科書編輯部『高等日本語読本』巻6 一九四二年七版
- 関東局在滿教務部教科書編輯部『高等日本語読本』巻7 一九四一年改訂四版
- 関東局在滿教務部教科書編輯部『高等日本語読本』巻8 一九四〇年改訂初版

各種中等学校程度の日本語教科書として編纂したもので「中等日本語読本」(南満州教育会教科書編輯部)の巻四と連続し、漸次高めて日本国内の中等学校の程度を達成できるように編纂。口語文から漸次文語文を増加させる方針をとっている。

## 高等日本語讀本 卷一

十六 松下村塾  
吉田松陰は天啓の鼓吹者なり感奮者なり。彼自ら己を空しくして他の善を採るを禁ずる能はざるのみならず又他をして覺えず己の精神意氣に同化せしむるを禁ずる能はざるしむる力を有す。これ故に教育家としての特色なり。其の踏海の策破れて下田の獄に繋がる。や獄卒に致くに自國を尊び外國を卑しみ爾常を重んじ衆倫を欲すべきを以てし獄吏の眼に涙あらしめたり。其の下田より

## 第6巻 「速成教育教材」

- 奉天外国語学校『速修日本語読本』全一巻 一九二四年一二版
- 南満州教育会教科書編輯部『新編速成日本語読本』巻1 一九三三年一一版
- 南満州教育会教科書編輯部『新編速成日本語読本』巻2 一九二九年三版
- 南満州教育会教科書編輯部『新編速成日本語読本』巻3 一九二八年再版
- 南満州教育会教科書編輯部『新編速成日本語読本』巻4 一九二九年再版
- 南満州教育会教科書編輯部『速修日本語読本』上巻 一九三三年三版
- 南満州教育会教科書編輯部『速修日本語読本』下巻 一九三三年初版
- 南満州鐵道株式会社教育研究所『日本口語法提要』全一巻 一九二三年再版
- 満鉄初等教育研究会第二部『滿鉄沿線に於ける日本語教授法の変遷』 一九三二年



目次	
第一章 滿鐵沿線に於ける日本語教授法變遷の概説	一
第二章 對譯式日本語教授法	四
第一節 創業當時の日本人教育	四
第二節 當時の日本語教科書	四
第三節 ペルリッツ式日本語教授法	七
第一節 ペルリッツ教授法の源流	七
第二節 ペルリッツ教授法の説明	九
第四章 山口喜一郎氏の日本語教授法	三〇
第一節 外國語教授の困難	三二
第二節 言語教授の方式の種類	三三
第三節 言語教授の各論	四五
第五章 鹿子生健三郎氏の日本語教授法	六七

## 編者が長年にわたり調査・収集した約1万頁余の教科書全79冊を体系的に網羅した待望の資料集。

### 第7巻 「満州国教科書」

満州国文教部『日本語教科書』上冊	初級小學校	一九三六年
満州国文教部『日本語教科書』下冊	初級小學校	一九三五年
満州国文教部『日本語教科書』上冊	高級小學校	一九三五年
満州国文教部『日本語教科書』下冊	高級小學校	一九三五年
満州国文教部『日本語教科書』上冊	初級中學校	一九三五年
満州国文教部『日本語教科書』中冊	初級中學校	一九三五年
満州国文教部『日本語教科書』下冊	初級中學校	一九三五年
満州国文教部『日本語教科書』上冊教授書	初級小學校	一九三五年
満州国文教部『日本語教科書』下冊教授書	初級小學校	一九三七年
満州国文教部『日本語教科書』上冊教授書	高級小學校	一九三七年
満州国文教部『日本語教科書』下冊教授書	高級小學校	一九三七年
満州国民生部『国民学校日語國民讀本』卷2	一九三八年	初版
満州国民生部『国民学校日語國民讀本』卷3	一九三八年	初版
満州国民生部『国民学校日語國民讀本』卷4	一九三九年	初版

#### 「満州」における日本語教科書の変遷（竹中憲二）

「満州国」成立後、『日本語教科書』初級小學校は一九三四年に上下が、『日本語教科書』高級小學校は一九三五年に上下が文教部より発行された。『国民学校日語國民讀本』は、教育制度改革により、一九三八・三九九年にかけて民生部より巻一・巻四が発行された。「満州国」において使用された公的教科書で、日本語を「満州国」の国語の一つとして重視する方針の下に編纂され、従来の会話体の文章より記述体の文章が多くなっているのが特徴である。原本には発行表示しがないが初版がわかるものは表示した。

『速修日本語読本』は日本語を速成で学習しようとする人のために編纂されたもので、独習の便を考えてフリ仮名を多くつけ、教材も日常生活に必要な事項を集めているのが特徴。『新編速成日本語読本』も編纂目的は同じであるが、『初等日本語読本』（全八巻）と同程度の日本語を速成的に学習しようとする人のために編纂したもので、分量も半分であるが、『中等日本語読本』に進めるようにしてあるのが特徴である。『速修日本語読本』（上・下巻）はヒラ仮名を多く使用し、会話を中心に編纂し、会話練習に便利なものにしたのが特徴。『日本口語法提要』は日語学堂・公学堂・実業補習学校の日本口語法教授の大意を理解させるために編纂したもの。『満鐵沿線に於ける日本語教授法の変遷』は中国人教育の開始より二〇数年の日本語教授法の変遷に関する研究をまとめたものである。

◆竹中憲一（早稲田大学教授）編・解説

# 「満州」植民地日本語教科書集成

◆刊行概要

編集復刻版（二頁に四面付（総九九〇頁）とし、縮小収録した）

全7巻（四六判・上製クロス装・ケース入り）

刊行Ⅱ二〇〇二年八月下旬一括刊行

◆推薦

上野田鶴子（東京女子大学現代文化学部教授）

奥津敬一郎（東京都立大学名誉教授）

甲斐睦朗（国立国語研究所長）

木村宗男（元早稲田大学教授元日本語教育学会副会長）

金田一春彦（国語学者）

佐治圭三（京都外国語大学契約教授）

宮島達夫（国立国語研究所名誉所員）

吉岡英幸（早稲田大学大学院日本語教育研究科委員長）

◆おすすめしたい方

日本教育史・日本植民地史・近代日本史の研究者

日本語教育研究者、民族教育研究者、国語研究者

大学図書館・公共図書館、及び関係研究機関など

◆定価

揃本体価格126,000円＋税（分売はいたしません） ISBN4-89774-508-X C3037

緑蔭書房

173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1 TEL 03 (3579) 5444

取扱書店